

令和4年度 芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「書Ⅱ」 教育図書						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰで習得した技法を基礎にして、多くの古典作品の臨書をし、さらに表現の幅を広げましょう。 ・書道Ⅰで培った集中力をさらに高める努力をしましょう。 ・自主性を育て、自分を考えて行動できるようにしましょう。 ・学習を通して、人間性を高めましょう。
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力をさらに伸ばす。 ・書の伝統と文化についての理解を深める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:書への 関心・意欲・態度	b:書表現の 構想と工夫	c:創造的な書表現の 技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書の高さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現をくふうしている。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の高さや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・発問に対する答え方 ・ノートのとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・提出作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・他者の作品に対する評価 ・提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
I	草書の学習)	『書譜』の臨書	○	○			a:見たまま、感じたままを口頭で表現できている。 b:毛筆を使って、見たまま、感じたままを表現できている。 c:特徴的な線質を習得し、倣書作品を完成できる。 d:自由作品として表現できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
II	篆刻の学習	6分角の姓名印の作成		○	○		a:篆書の特徴を理解する b:印稿の作成を丁寧に行う。 c:布字を根気よく、最後まで粘り強く取り組む。 d:運刀は大胆に、思い切っていく。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
	鑑賞作品制作	半切1/3に2字書き創作作品 半切1/3に5~6字書き臨書作品 表書きの練習		○	○		a:創作・臨書作品ともに半紙で練習する。 b:画仙紙で、練度を高める c:鑑賞力を生かし、完成度を高めていく。 d:半紙に表書きの練習を行う	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
III	鑑賞作品の完成	マグリの作品を裏打ちし、パネル作品として完成させる。 表書きの練習 仮名筆に慣れ、古筆の臨書 半紙の自由作品		○	○	○	a:「裏打ち」の説明をよく聞き、行動に移す。 b:指示をよく聞き、丁寧に取り組む。 c:表書きの練習の続きを行う。 仮名筆に慣れたら、古筆の臨書をする。 d:自由作品として表現できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品 ・ノート

※ 表中の観点について a:書への関心・意欲・態度 b:書表現の構想と工夫
 c:創造的な書表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。